

(9) 採用前、採用後別の身体障害者の雇用状況

イ 産業別

産業別に採用前身体障害者と採用後身体障害者の構成比を比較してみると、サービス業における採用前身体障害は84.9%と最も高い割合となっている。一方、採用後身体障害者の割合が最も高いのは建設業で63.5%となっている。そのほかの産業では、採用前障害者の割合は概ね7割程度、採用後障害者は3割程度となっている。

表1-12 採用前、採用後常用雇用身体障害者の雇用状況

(単位：千人、%)

産 業	調 査 産 業	採 用 前	採 用 後	不 明
調 査 産 業 計	396 千人 %	69.2	30.0	0.8
鉱 業	1 100.0	65.6	34.4	0.0
建 設 業	24 100.0	36.4	63.5	0.0
製 造 業	145 100.0	65.0	34.5	0.5
電気・ガス・熱供給・水道業	2 100.0	69.5	30.3	0.2
運 輸 ・ 通 信 業	49 100.0	68.8	30.8	0.4
卸売・小売、飲食店	63 100.0	69.1	30.8	0.0
金融・保険、不動産業	23 100.0	69.4	27.6	3.0
サ ー ビ ス 業	90 100.0	84.9	13.3	1.8

ロ 事業所規模別

事業所規模別に採用前身体障害者と採用後身体障害者の構成比を比較してみると、採用前身体障害者は小規模事業所ほど構成比が高くなっており、5～29人規模では75.0%が採用前身体障害者であった。一方、採用後身体障害者は1000人以上規模で41.6%と最も構成比が高くなっている。

表1-13 事業所規模別採用前・採用後常用雇用身体障害者の雇用状況

(単位：千人、%)

事業所規模	調 査 産 業 計	採 用 前	採 用 後	不 明
身 体 障 害 者 全 体	396 千人 %	69.2	30.0	0.8
事業所規模				
5～29人	138 100.0	75.0	24.5	0.5
30～99人	109 100.0	69.8	29.1	1.1
100～499人	109 100.0	64.6	34.5	0.8
500～999人	19 100.0	63.2	35.7	1.1
1000人以上	22 100.0	57.3	41.6	1.1

ホ 障害の種類別

採用前身体障害者と採用後身体障害者を障害の種類別にみると、採用後身体障害者の割合が採用前身体障害者の割合を上回っているのは内部障害者である。特に膀胱直腸機能障害は82.0%と高くなっている。